

研究主題 「心豊かに地域の未来を担う生徒の育成」

～「考え、議論する」道德の実現～

秩父市立荒川中学校

1 研究主題の設定理由

埼玉県の西部に位置する本校は、豊かな自然に恵まれ祭事や地域行事も多く、「絆」を重視した教育活動を行っている。また、秩父市では学校教育推進プランにおいて、市の未来を担う人材の育成を目指し「豊かな人間力の育成」を重点目標に掲げている。しかし、現状として生徒を取り巻く環境は、地域での人間関係の希薄化、社会共生集団としての多様な価値観にふれる機会が少ないなど「豊かな人間の育成」に向けて、課題が多く見られる。

そこで「考え、議論する」道德の研究を通じて多様な意見に触れる機会を設け、価値観を広げる環境を作る。また、地域や郷土とのつながりを重視した特色ある道德教育を展開し、体験活動や地域の教育資源を活用しながら道德的な課題に子供たちが向き合い主体的に解決する態度を育む。課題解決に向けた主体性・さらなる道德性の育成を目指して研究主題の設定とした。

<秩父市学校教育プランを基盤とした主題設定>



2 研究の仮説

(1)授業改善・研究の視点から

道德の指導方法・授業の工夫と改善を図り、考え、議論する道德を実践し、互いの価値観を認めれば心豊かに現代的課題（規範意識の育成・持続可能な社会）に対応できる生徒が育成できるであろう。

(2)地域との連携の視点から

学校と地域（郷土）が連携して道德教育を推進していけば、自己を見つめ広い視野から人間としての生き方について考えを深め、道德的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てることができるであろう。

3 研究の経過

時期	校内研修等	内容
4月17日	校内研修	○研究主題の決定(市教委 管理職 研究担当) ・研究の方向性の確認 ・授業改善に向けて
5月18日	校内研修	秩父市教育委員会教育研究所 飛川 成正 所長 テーマ 特別の教科道德「授業づくりについて」
5月22日	校内研修	○指導案・授業検討会

令和5年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

5月29日	学校支援訪問① 校内研修	埼玉県教育局市町村支援部 指導者 義務教育指導課 芳賀 一行 指導主事
6月13日	第1回公開授業	授業者 小泉 貴寛 校長 文部科学省「私たちの道徳」を活用
8月25日	校内研修	各調査生徒質問紙分析
10月18日	北部地区道徳教育研究協議会小中学校合同研修会 研究概要発表 田嶋 薫教諭	
11月10日	校内研修	○指導案・授業検討会
11月17日	学校支援訪問② 校内研修	埼玉県教育局市町村支援部 指導者 義務教育指導課 芳賀 一行 指導主事
12月4日	校内研修	○指導案・授業検討会
12月9日	校内研修	○指導案・授業検討会
1月9日	校内研修	○指導案・授業検討会 指導者：北部教育事務所 邊見 梓 指導主事
1月29日	夢と豊かな心をはぐくむ講演会（講師：ヴィクトル板楠 氏）	
1月30日	埼玉県教育委員会委嘱道徳教育推進モデル校中間発表会 指導者 義務教育指導課 芳賀 一行 指導主事 北部教育事務所 亀田 央葉 指導主事 北部教育事務所 邊見 梓 指導主事	

4 研究の内容

(1) 授業実践部の取組

① 授業づくりの研究

年度当初において「道徳教育の抜本的改善・充実に係わる支援授業」をもとに、秩父市教育委員会教育研究所 飛川 成正 所長より「特別の教科道徳授業づくりについて」の講義をいただいた。部会においてこの授業づくりを指針とし、本校の研究主題と連鎖させながら、指導案検討を繰り返し行った。教職員全員が授業づくりの視点を養うとともに、校内研修において指導案検討会を繰り返し行い授業改善について方向性の統一を図った。



講義「授業づくりについて」

② 公開授業の実施

学校支援訪問として、2回の研究授業（指導者 義務教育指導課 芳賀 一行 指導主事）を公開するとともに、全職員で道徳の公開授業・研究授業を1回行う事を計画した。各学年だけでなく、管理職を含めた輪番制を計画することで、6月13日第1回授業公開（授業者：小泉貴寛校長 文部科学省私たちの道徳を



1年研究授業

活用）とし、実践した。この全職員公開授業により職員の研究への参画意識が高まり、互いに磨き合う組織を構築した。

(2) 環境地域連携部の取組

① 地域とともに推進する特色ある教育活動

秩父のよさを実感できる体験活動の推進として、「伝統芸能発表」、「農業体験」、「夢と豊かな心をはぐくむ講演会」などを実施した。体験活動を通し地域の想いと誇り、自己肯定感を育むと共に、自己の生き方についてみつめる機会とした。また、身近に感じる素材や地域を題材にすることで物事を広い視野から考える学習へとつなげた。



伝統芸能発表

② 道徳コーナーの設置、環境の充実

「道徳コーナー」を新設し、他者の良いところ認める「GOODカード」や、多様な意見（道徳ノート）を抜粋し掲示）にふれ、考えを深める掲示物を作成した。



道徳コーナー

授業の振り返り

また、道徳の授業における振り返りの充実を図るために、過去に学習した内容や生徒の考えや意見をもとにまとめ掲示した。

③ 道徳通信の発行、家庭との連携

道徳通信の発行や、保護者会における家庭用「彩の国の道徳」の活用を啓発、道徳授業の様子やその他の取組を学校HPに積極的に公開するなど、家庭と連携し道徳性の育成に努めた。



3年道徳通信

④ アンケートの実施と分析

5月に生徒アンケート（全7項目）を実施した。この「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、グループ活動に取り組んでいる」の質問に対して肯定的に解答した生徒の割合は93.1%に及んだ。結果を受けて、道徳の授業や本研究テーマ及び規律ある態度との相関を焦点化したアンケート（10月及び1月 全16項目）を全校生徒に実施した。

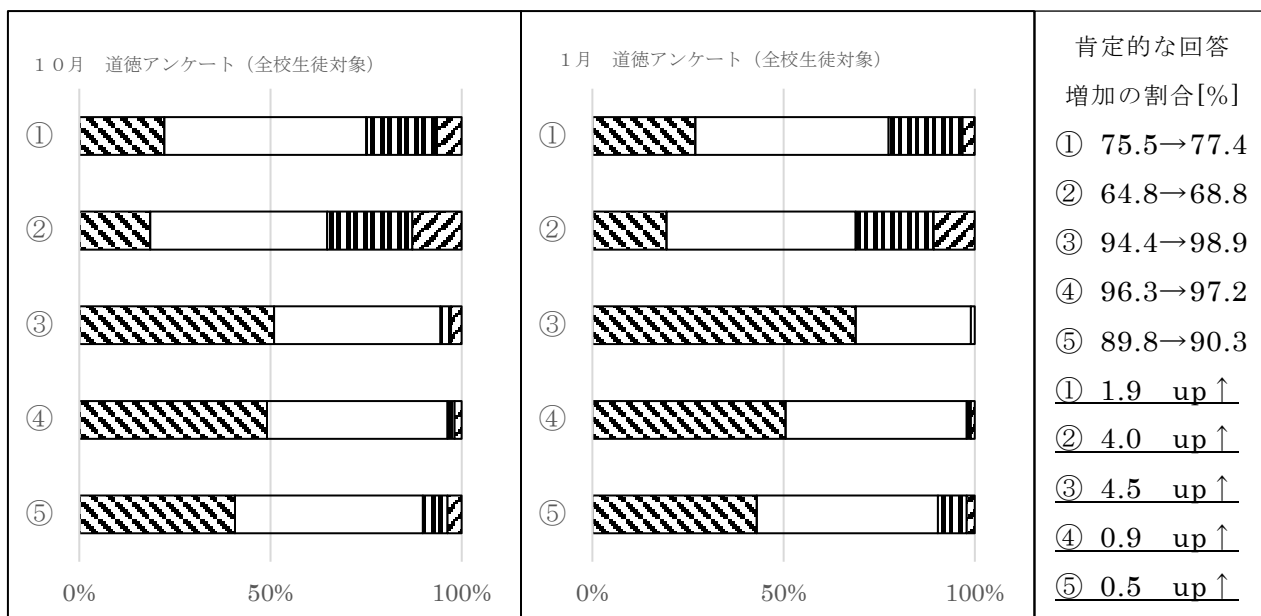
5 研究の成果と課題

(1) 成果

10月及び1月のアンケートにおいて、「道徳の授業に関する質問5項目」は以下のグラフになった。

① 道徳の授業は楽しいですか	<input checked="" type="checkbox"/> 当てはまる <input type="checkbox"/> まあ当てはまる <input type="checkbox"/> まあ当てはまらない <input checked="" type="checkbox"/> 当てはまらない
② 道徳の授業は好きですか	
③ 道徳の授業では、自分とは違う考え方や感じ方があることを知ることができましたか	
④ 道徳の授業では、時と場合やあらゆる人の立場に立って、色々な角度から考えることはできましたか	
⑤ 道徳の授業では、現在の自分を振り返り、今後に向けて行動や考え方を見つめなおすことができましたか	

令和5年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書



グラフ結果より、どの項目にも増加がみられた。特に③～⑤の「他者の意見にふれ、多面的多角的に考える道徳の授業」に対して肯定的に回答した生徒の割合は高い水準を維持している。(10月～1月の3カ月に最も割合が向上した質問項目：③の「当てはまる」17.9%UP)

授業改善の視点からの考察

教職員の道徳授業実践に関する意識の向上と統一化、全職員が参加する指導案検討会・講義や校内研修の充実、研究主題とからめた授業構成や展開を一から見直したことなどが要因として考えられる。



全職員指導案検討会

地域連携・環境の視点からの考察

道徳授業の振り返りを道徳コーナーや廊下に掲示することで、他者の意見や自分の行動を見直すことができた。また、講演会や荒川中ならではの体験活動を通して、様々な価値観にふれ、他人の立場になって考えることができた。



道徳に関する掲示物

(2) 課題

道徳の授業アンケートとともに行った「規律ある態度」についての項目では、肯定的に回答した割合が減少しているものもあった。一方「新しいことへの挑戦・体験」「進んであいさつ」「優しい言葉づかい」「時間を守る・整理整頓」の項目で肯定的な回答の割合が増加した。また、すべての項目において「当てはまらない」と回答した生徒は減少したことから、継続してアンケートを実施し、道徳教育充実との相関関係を調べていく。

職員一丸となって道徳授業研究をさらにすすめ、「考え、議論する」荒川中学校道徳スタイルを確立させていく。また、環境を整備しつつ、小中の連携や評価の視点など多角的に考察し、「心豊かに地域の未来を担う生徒の育成」を目指す。